

イモリ しんぶん

発行日：2021年 10月 19日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

水中生活のようす

今年度はたくさんアカハライモリが無事に成長したため、いろんな環境で飼育をしています。どんな水槽（容器）がいいのか、同時にどれくらい飼育してもいいのかを模索していました。全ての飼育環境で、隠れ場所となる水草や石、容器などを用意しています。



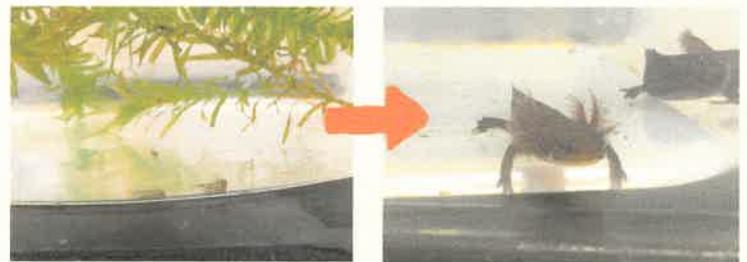
①風呂桶にたくさん幼生を飼育。②水槽で水位を浅くし、少数飼育。③水槽で水位を深くし、少数飼育。④メダカの水槽に単独飼育

結論から言うと、個体群密度が低いとゆっくりと大きく成長します。逆に、密度が高いとエサをめぐる競争が起こり、体は小さいまま幼体となります。また、メダカと一緒に飼育していた個体は、メダカとのエサをめぐる競争に負け、かつメダカにつつかれながら（エラをアカムシと間違えられる）暮らしているので、体は小さく成長しました。



イモリの成長

ブラインシュリンプを食べて大きくなったアカハライモリの幼生は、だんだんと成体の体つきに近づいてきます。



圧倒的成長 🍌🍌🍌

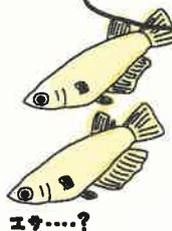
右の写真のような大きさになると、ブラインシュリンプではなく、冷凍のアカムシ（ユスリカの幼虫）を与えます。



アカムシは成体のイモリもよく食べます

↑成体アカハライモリ（メス）。ダイエット中（オスの分までエサを食べる）。

密度効果で
検索してください。



次回 上陸編その1